

2025年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年4月30日

上場会社名 株式会社篠崎屋 上場取引所 東
コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com>
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 関根 雅之
問合せ先責任者 （役職名） 取締役管理グループ長兼経営 企画部長兼IR室長 （氏名） 矢立 実 TEL 048-970-4949
半期報告書提出予定日 2025年5月7日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年9月期第2四半期（中間期）の業績（2024年10月1日～2025年3月31日）

（1）経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期中間期	1,523	6.3	59	156.2	61	150.0	39	177.0
2024年9月期中間期	1,433	4.0	23	—	24	—	14	△59.5

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期中間期	2.80	—
2024年9月期中間期	1.01	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期中間期	1,393	1,050	75.4
2024年9月期	1,285	1,010	78.6

（参考）自己資本 2025年9月期中間期 1,050百万円 2024年9月期 1,010百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年9月期	—	0.00			
2025年9月期（予想）			—	—	—

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2025年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 2025年9月期の業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、第2四半期累計期間につきましては同第2四半期中、及び同通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年9月期中間期	14,436,600株	2024年9月期	14,436,600株
2025年9月期中間期	278,820株	2024年9月期	278,800株
2025年9月期中間期	14,157,800株	2024年9月期中間期	14,157,800株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(中間損益計算書に関する注記)	7
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	8

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、消費者にとって価値のある商品づくり、人づくり、店づくりを目指し、「よりいいものをより安く」提供し、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

当中間会計期間において、商品につきましては、引き続き「健康」をキーワードに「茂蔵オリジナル商品」を強化し、物価高騰の今後の対策として、顧客数の確保を第一に取り組んでまいりました。

当中間会計期間の売上高は1,523,398千円（前年同期比6.3%増）、営業利益は59,142千円（前年同期比156.2%増）、経常利益は61,831千円（前年同期比150.0%増）、中間純利益は39,637千円（前年同期比177.0%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当セグメントにおいては「よりいいものをより安く」をコンセプトに「三代目茂蔵」ブランドのクオリティ向上を推し進めております。当中間会計期間におきましては、引き続き「健康」をキーワードに「茂蔵オリジナル商品」の開発強化をすすめ健康ブランド向上に努めました。具体的には買いやすい価格帯に設定した新商品開発や既存商品の規格見直し強化を行い、値上げによる顧客数減少の対策と売上高の拡大に取り組んでまいりました。

店舗におきましては、引き続き開店時間から12時までの時間帯に「朝市」を開催し、購買意欲の高い顧客層の来店頻度の向上を図りつつ、更なる顧客数確保のため店頭商品の大幅な見直しを行ってまいりました。

これらにより1店舗平均の顧客数は前年同期比97.9%、顧客単価は価格見直し等もあり、同111.4%となりました。

店舗につきましては、リモート会議にて販売スタッフとの情報共有を徹底することにより1店舗あたりの生産性向上を目指しました。

以上の結果、小売事業の売上高は1,360,319千円（前年同期比5.8%増）となりました。セグメント利益（営業利益）につきましては、顧客数の増減を慎重に判断しながら商品規格を見直した結果、売上総利益率が改善したことにより130,151千円（前年同期比46.3%増）となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は163,079千円（前年同期比10.3%増）、セグメント利益（営業利益）は10,060千円（前年同期比45.4%増）となりました。

なお、当中間会計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当中間期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	30	—	—	30
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	392	8	10	390
合計		422	8	10	420

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

(資産)

当中間会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して108,048千円増加し1,393,130千円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加120,003千円、一方で水海道工場売却に係る売却代金の回収に伴う長期未収入金の減少18,804千円等によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して68,410千円増加し342,821千円となりました。主な要因は、買掛金の増加46,963千円、未払金の増加13,781千円等によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して39,637千円増加し1,050,308千円となりました。これは中間純利益39,637千円の計上により利益剰余金が39,637千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して120,003千円増加し638,527千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、111,742千円（前年同期は69,577千円の収入）となりました。これは主に、増加要因として税引前中間純利益54,086千円、仕入債務の増加額46,963千円、減少要因として法人税等の支払額12,990千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、8,258千円（前年同期は16,354千円の収入）となりました。これは、長期未収入金の回収による収入18,804千円等、減少要因として有形固定資産の取得による10,545千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における財務活動による資金の増減はありませんでした（前年同期は11,250千円の支出）。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。

なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、第2四半期累計期間につきましては同第2四半期中、及び同通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をしてまいります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年9月30日)	当中間会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	518,524	638,527
売掛金及び契約資産	56,817	60,516
商品及び製品	38,110	41,169
原材料及び貯蔵品	2,838	3,486
その他	67,113	66,611
貸倒引当金	△40	△40
流動資産合計	683,364	810,270
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	21,017	21,115
構築物（純額）	2,820	2,538
工具、器具及び備品（純額）	5,506	6,412
土地	189,970	189,970
その他（純額）	1,514	1,216
有形固定資産合計	220,829	221,254
無形固定資産	3,129	2,650
投資その他の資産		
敷金及び保証金	104,958	104,958
長期未収入金	272,658	253,854
その他	429	429
貸倒引当金	△287	△287
投資その他の資産合計	377,758	358,954
固定資産合計	601,717	582,859
資産合計	1,285,082	1,393,130
負債の部		
流動負債		
買掛金	172,616	219,580
未払金	40,917	54,789
未払費用	35,209	37,825
未払法人税等	19,942	22,531
その他	3,024	3,394
流動負債合計	271,710	338,121
固定負債		
長期預り保証金	2,700	4,700
固定負債合計	2,700	4,700
負債合計	274,410	342,821
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	△68,879	△29,242
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,010,671	1,050,308
純資産合計	1,010,671	1,050,308
負債純資産合計	1,285,082	1,393,130

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
売上高	1,433,478	1,523,398
売上原価	1,020,846	1,047,041
売上総利益	412,632	476,357
販売費及び一般管理費	389,550	417,214
営業利益	23,082	59,142
営業外収益		
受取利息	2,123	2,186
受取賃貸料	4,791	4,911
その他	16	456
営業外収益合計	6,931	7,553
営業外費用		
支払利息	47	—
賃貸費用	4,726	4,864
その他	508	0
営業外費用合計	5,282	4,865
経常利益	24,731	61,831
特別損失		
減損損失	1,011	7,717
固定資産除却損	0	24
店舗閉鎖損失	—	2
特別損失合計	1,011	7,744
税引前中間純利益	23,719	54,086
法人税、住民税及び事業税	9,408	14,448
法人税等合計	9,408	14,448
中間純利益	14,310	39,637

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	23,719	54,086
減価償却費及びその他の償却費	4,369	4,345
減損損失	1,011	7,717
受取利息及び受取配当金	△2,123	△2,186
支払利息	47	—
為替差損益(△は益)	△0	△3
固定資産除却損	0	24
売上債権の増減額(△は増加)	△2,279	△3,698
棚卸資産の増減額(△は増加)	△6,729	△3,706
仕入債務の増減額(△は減少)	62,684	46,963
未払金の増減額(△は減少)	1,822	4,782
未払消費税等の増減額(△は減少)	△6,259	8,733
その他	5,262	5,487
小計	81,523	122,546
利息及び配当金の受取額	2,123	2,186
利息の支払額	△43	—
法人税等の支払額	△14,026	△12,990
営業活動によるキャッシュ・フロー	69,577	111,742
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,436	△10,545
敷金及び保証金の差入による支出	△13	△15
敷金及び保証金の回収による収入	—	15
長期未収入金の回収による収入	18,804	18,804
投資活動によるキャッシュ・フロー	16,354	8,258
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△11,250	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,250	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	3
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	74,682	120,003
現金及び現金同等物の期首残高	626,478	518,524
現金及び現金同等物の中間期末残高	701,161	638,527

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
給料手当	36,100千円	45,263千円
雑給	119,099	120,807
地代家賃	98,144	99,037

(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
現金及び預金勘定	701,161千円	638,527千円
現金及び現金同等物	701,161	638,527

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,285,572	147,906	1,433,478	—	1,433,478
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,285,572	147,906	1,433,478	—	1,433,478
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,285,572	147,906	1,433,478	—	1,433,478
セグメント損益	88,945	6,921	95,866	△72,784	23,082

(注) 1. セグメント損益の調整額△72,784千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、1,011千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当中間会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,360,319	163,079	1,523,398	—	1,523,398
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,360,319	163,079	1,523,398	—	1,523,398
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,360,319	163,079	1,523,398	—	1,523,398
セグメント損益	130,151	10,060	140,211	△81,069	59,142

(注) 1. セグメント損益の調整額△81,069千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「小売事業」セグメントにおいて、不採算店舗のうち今後も収益改善の可能性が低いと判断した店舗について、7,717千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。